

全 仙

ZENBUTSU

J A P A N
B U D D H I S T
F E D E R A T I O N

仏暦2568年1月
[2025年]

No.664

特集

仏教とAI

～「ブッダボット」開発の背景と思想的意義～



新年のご挨拶 3

伊藤 唯眞 / 公益財団法人 全日本仏教会 第36期会長
池田 行信 / 公益財団法人 全日本仏教会 第36期理事長

特集1

仏教と AI 4
~「ブッダボット」開発の背景と思想的意義~

特集2

源泉徴収制度と寺院 12

加盟団体からのお知らせ

【黄檗宗】大本山萬福寺の諸堂、国宝に指定 16

年賀交換 18

本会からの報告 29

- ・第8回花まつりデザイン大賞発表
- ・第36期各種審議会委員会委員
- ・第1回法人創立70周年記念事業実行委員会総務部会
- ・第1回法人創立70周年記念事業実行委員会財務部会
- ・第2回法人創立70周年記念事業実行委員会総務部会
- ・第2回法人創立70周年記念事業実行委員会財務部会
- ・第2回法人創立70周年記念事業実行委員会
- ・第2回総務財政審議会
- ・第36期第2回社会人権審議会
- ・WFB国際平和会議in ユネスコ
- ・第44回理事会報告
- ・第36期第2回国際交流審議会
- ・「賛助会員」新規入会者一覧
- ・「救援基金」寄附者一覧

新年のご挨拶

公益財団法人 全日本仏教会 第36期会長

伊藤 唯眞



み仏の慈光のもと、爽やかな新春をお迎えになられましたこととお慶び申し上げます。

昨年元日に発生しました能登半島地震から一年が経ちました。更に九月には、奥能登豪雨により被害が拡大し、今もなお多くの方々が生生活盤を失い困難な状況が続いております。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災者支援活動が円滑に進み、一日も早い復興と平穏な日常が戻ることを念じております。

また、世界に目を向けますと、対立と混乱、テロと戦争が続いており、多くの尊い命が奪われ、連日のように悲惨な映像が届いています。暴力や復讐の連鎖を断ち切るものは寛容と慈愛の心、そして佛陀の和の精神です。

今年、広島・長崎に原子爆弾が投下されて80年を迎えます。世界で武力による争いが絶えない中、核兵器のない世界を実現するための活動と、核兵器が二度と使用されてはならないことを語り継いできた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が、昨年ノーベル平和賞を受賞されたことは、大変意義深く、永年に渡る弛まぬ努力に敬意を表するものであります。

世界平和に対する仏教徒の役割は大きいものであり、その使命感を確立し、誰ひとり漏らさない宗教精神を喚起し、非戦・平和のため、一人ひとりが役目を果たすときであります。

公益財団法人 全日本仏教会 第36期理事長

池田 行信



年頭にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年1月の能登半島地震被害に続き、9月には豪雨災害に見舞われた被災寺院・檀門信徒の皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

また、昨年10月、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞されました。この度の受賞に、仏陀の和の精神を基調に、仏教文化の宣揚と世界平和に寄与することを目的とする全日本仏教会として祝意を表したく思っています。

さて、全日本仏教会は1954（昭和29）年、「わが国の仏教界を統一し、僧俗一体のいわゆる全一仏教運動を強力に推進する」ために結成されました。結成当初「全一仏教運動」に期待されたのは、「世界伝道」へ向けた「国内仏教の一層の結集と躍進」でした。

しかし今日、仏教界を取り巻く環境は、自然災害をはじめ、少子高齢化、過疎化、人口減少等々、大変厳しい社会環境の中にありますが、仏陀の和の精神を基調に、仏教文化の宣揚と世界平和に寄与するためにも、戦後80年を迎え、靖国問題・死刑制度・部落差別やジェンダーの問題等々、世の動きを注視しつつ、結成当初の創立の志願を忘れることなく、仏教的価値観を発信してまいりたいと存じます。

本年も、よろしくご教導くださいますようお願い申し上げます。

仏教とAI

「ブッダボット」開発の背景と思想的意義

2022年11月、OpenAI社による対話型AI、「ChatGPT」の発表を契機に、「生成AI」が驚異的なスピードで社会に普及しました。生成AIとは、ユーザーが自然な言語で指示を出すだけで、テキスト、画像、映像等の多様な形式のアウトプットを取得できるものです。それ以来、OpenAI社以外にも多くの企業が、生成AIの開発を発表し、世界的な開発競争が起こっています。一方で、それをいかに上手く利用するか、成果物の著作権はどうなるのかなど、新たな問題も生じるようになりました。

こうした技術的な発展と仏教とは、直接的な関係は一見なさそうに見えますが、仏教研究におけるAIの利用や、寺院と大学が連携した、法話をするロボット型の仏像の制作など、人々により近い距離でも登場しつつあります。京都大学において作られた「ブッダボット」もその中の一つです。それらに眉をしかめる方もいるかもしれませんが、しかし仏教も技術の進歩とは決して無縁ではなく、なによりAIは人とはなにかを問い直す技

術であり、また戦争目的にも容易に利用されうる技術であるため、無関心のままではいられないでしょう。

そこで今号の特集では、「ブッダボット」の開発者の一人、亀山隆彦先生にお話しを伺いました。私たちは、AIについてまだ何も知りません。ですから、まずは知ること、そしてそれぞれの人がAIについて考えていただければ幸いです。

—— 亀山先生も参加されている、京都大学・人と社会の未来研究院の熊谷誠慈教授をリーダーとする研究チームと、株式会社テラバースの古屋俊和CEOは、2021年3月にブッダボットを、2023年7月にはブッダボットプラスを発表されました。それらは、ユーザーの問いに対して仏教的に回答するボットとして注目され、一般誌にも取り上げられました。最初にこのブッダボットとは何かをお伺いできたらと思います。

した「テラバース構想」があり、それらをまとめて「ブッダボットプロジェクト」と呼んでいます。

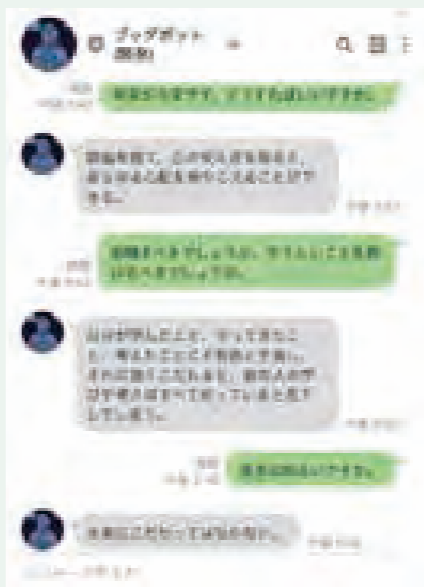
「仏教対話AI」と、「テラ・プラットフォームARバージョン1.0」と「テラバース構想」の関係性は、仏教対話AIがコアにあって、これを拡張する形でテラ・プラットフォームがあり、さらにこの全部を包み込んでいるのがテラバースとなります。

ブッダボットを発表したのは2021年3月ですが、実際は2019年頃から作っています。私は2020年にチームに入って、AIに機械学習させるための基礎データをずっと作っていました。

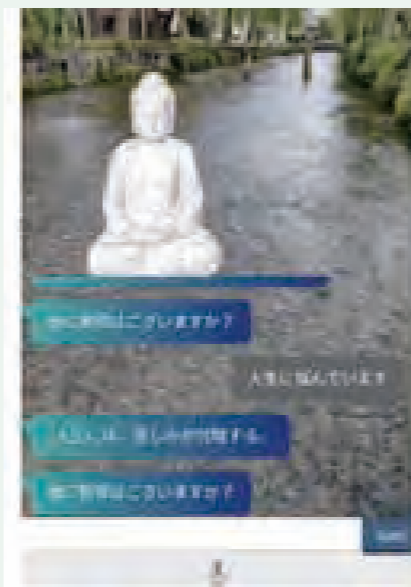
1年半後の2022年9月に、テラ・プラットフォームARバージョン1.0を発表しました。スマートフォン画面にブッダのAvatarが出てきて、音声でやり取りができます。それまでは書いて読むだけでしたが、見てしゃべってという、一応マルチモーダルなコミュニケーションができるようになりました。

生成系AIであるChatGPTの3.5が出た後の2023年7月、それを応用したブッダ

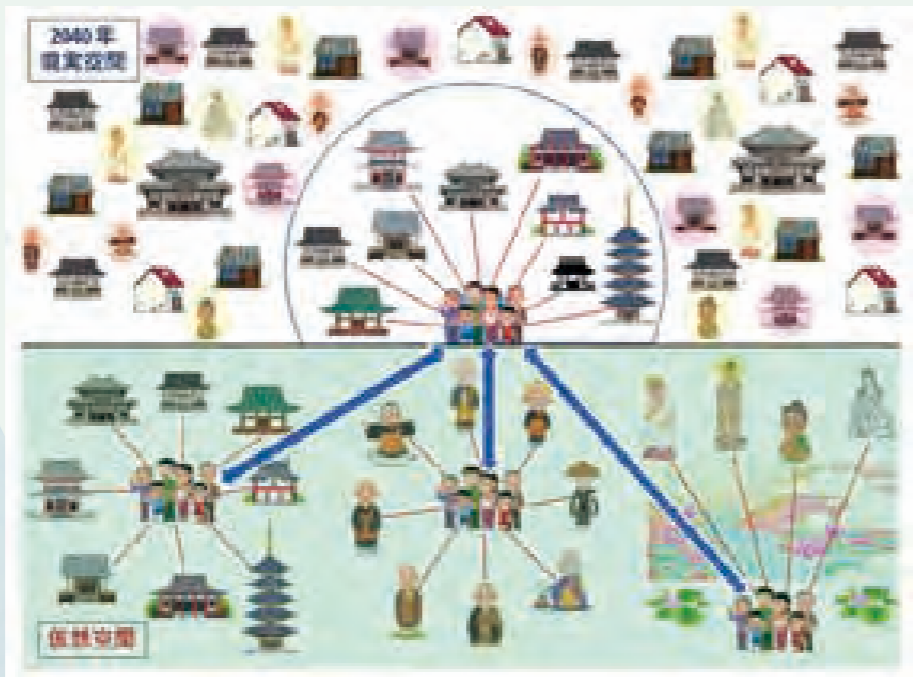
ブッダボットは通称で、「仏教対話AI」が正確な名前です。仏教とAIを組み合わせたらおもしろい。



ブッダボットのLINE画面



テラ・プラットフォーム AR Ver1.0

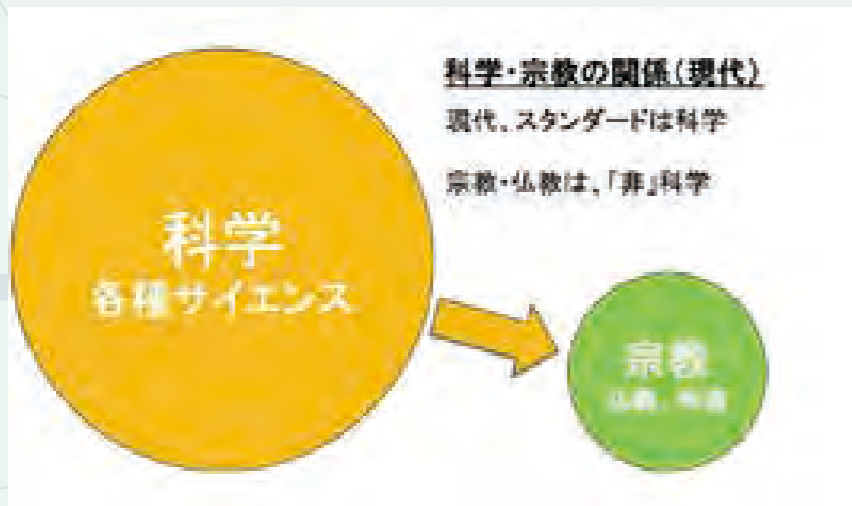


AR/VR 技術を用いた仏教的現実空間・仮想空間の再構築

ボットプラスを発表しました。ここで初めて文章の生成ができるようになりました。前のバージョンは疑似的な生成で、前もってこちらで問答を作って、それを学習したAIが、問に合わせて答えを選ぶシステムでした。2023年9月にはプラットフォームと同じくChatGPTを使った親鸞ボット



ろいから始めたんじゃないかとよく言われますが、そうではありません。どうすれば仏教的観点から社会課題に効率よく一般人に届く形で回答できるか、という目標に対する手段としてAIがあります。その上で、AIに仏教経典を機械学習させて答えを出すと考えたのが大事なポイントです。2021年に「ブッダボット」を発表してから今まで、ChatGPTを応用した「ブッダボットプラス」、「親鸞ボット」や「世親ボット」、最近「最澄ボット」などの開祖や聖人の「仏教対話AI」。またAR（オーギュメントドリアリティ、拡張現実）技術と統合し、スマートフォンにブッダのAvatarを映し出す「テラ・プラットフォームARバージョン1.0」を作ってきました。さらにそれらを含んだ仮想空間の構築を目指



会における科学と宗教の関係を言いますと、科学が中心にあつて、そこから宗教や他の文化を見えています。スタンダードは科学で、そうでない宗教も仏教も「非科学」と呼ばれます。現代では仏教徒もそういう目線で見えています。しかし、かつては逆でした。仏教が世界の中心的な知識でした。当ても数学や医学の知識はありましたが、あくま



京都大学 人と社会の未来研究院

や世親ボットも発表しました。

仏教仮想空間であるテラバーズはまだ構想の段階ですが、これは、AR技術を使って現実空間にアバター僧侶、アバター寺院、アバターブッダ・聖者を登場させてより重層的な精神文化を構築し、さらにVR（仮想現実）技術を使ってサイバー空間上にサイバー寺院等を構築した上で、両空間を繋ぐことで既存の宗教文化を量的質的に増大、向上させることを目指しています。

これらはもちろん私たちだけで作っているわけではなくて、エンジニアチームと研究者が協力し

ています。我々だけだとChatGPTをコントロールできないですし、彼らだけだと、思想をコントロールできないので、両方が協力する必要があります。

この京都大学・人と社会の未来研究院を拠点に、熊谷誠慈教授をリーダーとする研究ラボが中心となって、プロジェクトを進めています。より大きな枠組みでいうと、これまでにない形での文理融合研究、さらに伝統知を現代に生かすための「伝統知テクノロジー」を開発するのがこのラボの目的です。こういった枠組みがあつて、さらにその外側に仏教的目的があつて、それらの中核にブッダボットがあるというイメージで捉えていただければと思います。

—— 文理融合研究による「伝統知テクノロジー」の開発というのは、どのようなものでしょうか？

私たちの本職は文献研究者やフィールドワーカーなので、ベースは実証研究なんです。中国、韓国、日本、さらにインド、チベット、東南アジアなどのアジア各地の仏教思想を学術的に考察しています。つまり、実際に経典を読んで分析したり、議論したりしていますが、その中から見出されてくる一連の智慧を伝統知と呼んで、その意義は何か、

どうやって社会に還元していくかも研究しています。単に仏教の古文書を読んで内容を明らかにして終わりではなくて、それらを社会に還元しないと、そもそもの仏教の精神から見ても意味がありません。

そのためのツールとしてのAIや情報技術、文理融合の各種開発事業があり、結果のアウトプットとしての一連のブッダボットプロジェクトがあります。

—— 伝統知テクノロジー開発のアウトプットとしてブッダボットプロジェクト。その開発の出発点はどういったものだったのでしょうか？

最初に申しあげたとおり、プロジェクトはAIありきでスタートしたわけではありません。日本における仏教離れ、お寺離れがすべての始まりでした。ジャーナリストで僧侶でもある鶴飼秀徳さんが、2040年までに3割のお寺が廃業になるとおっしゃっています。あえてこういう言い方しますけど、日本ではなぜ仏教に人気がないのか、私も含めて、仏教に対する日本人の理解がなぜ低くなってしまったのか。一つは私たちの社会に、もう一つは仏教側に原因があります。

ポイントは科学と宗教の関係です。私たちの社

でスタンダードは仏教で、それ以外は「外教」とか「外道」と呼ばれました。外教は仏教以外の教えで、外道は仏教以外の道、逆に仏教は内教と言われました。仏教が真ん中にあつたかつての人と、

科学的な世界観が中心にある我々を比べたときに、つまり、1日の16時間を仏教に使い、8時間をそれ以外に使っていた人と、その逆の人では理解が違いますよね。かつての日本人はすべてを仏教に捧げていた。それは社会がそういう構造だったからですが、私たちはそうではありません。

一方で、仏教側の問題というのは、仏教の形骸化です。私自身も僧籍をいただいているので、一方的に切つて捨てるわけではありませんが、今の日本のお寺は形だけの仏教、形だけのお葬式、形だけのお説教と言われても仕方ないと思う部分もあります。人々が抱える悩みや社会課題に、仏教が応答できていると言うことはできないでしょう。それは私も含めた仏教の担い手に半分責任があるとも言えるし、現代の社会構造がそうなのだから、そんな責任は我々には取れないとも言える。

そういった非常に難しく複雑な状況を踏まえて、それでも我々は仏教を復興したいと思つている。それには仏教本来の役割、原点に立ち返ることが必要なのではないか。仏教の原点には諸説あると思いますが、やはりキーワードは「幸せ」「幸

福に生きる」「幸せになるための教え」。この仏教のこの力をもう一度どうやって取り戻すかだと思います。

熊谷教授は、かなり以前から天台宗の青蓮院門跡の東伏見光普さんの相談を受けて、こうした日本仏教の課題や潜在能力に関する議論を二人ですつと続けていたそうです。それは、いろいろな人がそれぞれの場所でそれぞれの形で、この原点となる教えを享受できる方法は何か、という論点からスタートしました。そして、あれは使えないかこれは使えないかと喧々譁々議論したそうです。最終的に人工知能、これは使えないだろうか。



AIと組み合わせ、仏教の開祖、ゴータマ・シッダールタのような叡智的な存在を作れたら良いのではないかとありました。このようにAIが出てくるのは最後の最後だったんです。

—— 仏教に携わる側の形骸化を原因とする仏教離れというのは私たちにあって耳の痛い話です。しかし、科学的な見方が支配的な現代という時代において、苦しむ人がいるなら、仏教がそうした世界観の代替となるように訴えていきたいという思いは、私たちも同じです。

「幸せになるための教え」という仏教の原点を人に伝えるための手段としてのAIを、2500年にわたる仏教の歴史において、どのように捉えたら良いでしょうか？

科学的世界観と宗教的世界観の両者が重なり合うポイントに、ブッダボットはいます。現代の科学側からの視点だけではなく、宗教側からの視点も交差するようになるという点と私は考えています。そのためには仏教がもっと強くしっかりしたものになる必要があります。

そうした中で、ブッダボットに一体どのような意味があるのか。それを考えるときにキーワードになるのは「身」に関する教えです。

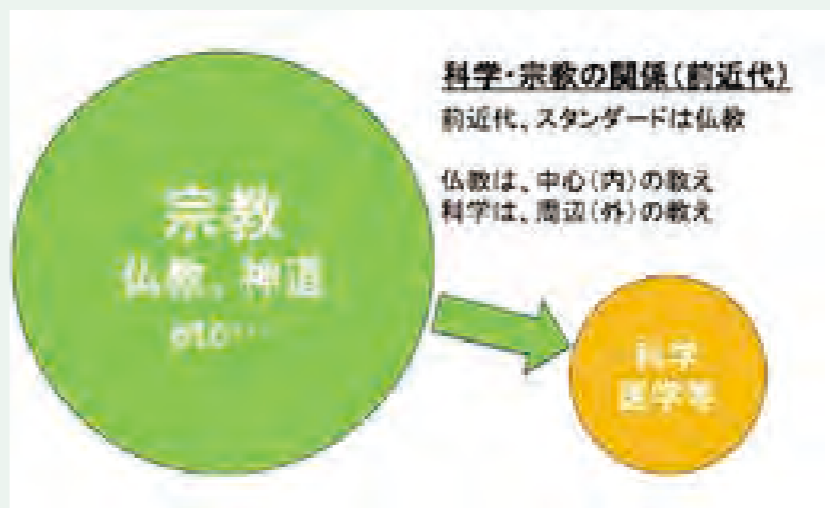
はありません。「身」もまた極めて重要なんです。仏教ではチッタやフリダヤというサンスクリット語を心と訳しますが、この心は単に私たちがイメージする抽象的な感情とか脳の分泌物だけではなく、心臓も指します。心臓という物質的な土台の上に心の働きが具体的に乗っていると、多くの仏教者は考えます。今の私たちは、感情的なものとか、目に見えない抽象的ものを心と呼びます。だけど、目に見える物質である心臓に宿るものが仏教的な心です。

身体と心の結びつきに焦点を合わせると、私たちが想像できない、複雑で精緻な知識の構造が、仏教の中に見えてきます。今の我々の生理学や工学など自然科学の知識に似た、世界を説明するための総合的な知が、実は仏教にも備わっていることがわかります。その中における心であり、身体であり、存在であり、ブッダなのです。

—— 現代の科学に比肩しうる仏教の持つ総合的な知。そこからブッダボットを捉えていると。

例えば五臓曼荼羅のように人間の身体と外界の繋がりを総合的に捉えていくことを日本の仏教徒もやっています。日本の仏教という法然や親鸞あるいは道元という専修念仏や只管打坐の「もっ

仏教で「身」と言うと、煩惱具足の私たちのこの「身」を思い出されると思うんですけど、一方でブッダの「身」に関する教えもある。すなわち「仏身」ですが、それが大きなポイントになってきます。仏教は心の宗教とよく言われますし、それは間違いではありません。しかし、今の私たちが身体と切り離してイメージするような心の宗教ではないんです。



ばら」や「ただひたすら」といった理念を中心に考えられがちですが、それらの前に総合的世界観があり、両者はお互いに補い合う関係にあります。世界を丸ごと観察して、仏教の立場からそれを説明するのが仏教の科学といえますか、科学のもう一つのオルタナティブなあり方です。

そういった中でブッダの存在、ブッダの「身」も仏教存在論の中で説明されます。ブッダは、「法身」と言われる色や形を持たない抽象的なダルマとしての存在から、「応身」と呼ばれるこの世界に降りてくる存在まで、さまざまなレイヤー(層)を持っています。

このレイヤーを仏教科学の世界観の中で説明すると、例えば「生身」という考え方があります。これはいわゆる変化身のことですね。生身は、血肉を持った身を持ち、我々に分かる言葉を操って、我々が実際に接触できるブッダであり、仏像もその一つです。仏像は基本的に、法身のブッダや高いレベルのブッダの代替物として、この世界に救済のために現れる物質的な救済者です。それもひっそるめて生身仏といえます。ブッダボットや仏教AIは、すべてここから説明できると私は思っています。つまり生身としてのブッダボットです。

—— 私たちにもわかる言葉で話し、接触するこ



心をどう理解するかに関しては、歴史上いろいろな考え方があって、例えばキリスト教と仏教では心と体の関係の捉え方が全然違います。仏教は、心と身体が深く結びついた統合的な身を扱う宗教です。だから瞑想に意味がある。瞑想は心だけを見るわけではなくて、トータルで存在そのものを見ることです。なので現代的意味での心の宗教で

とができる生身仏として、ブッダボットを制作されたということですね。では、ブッダボットを制作することによって、こういった地平を目指しているのでしょうか。

ブッダボットを作ったら終わりではありません。ブッダボットプロジェクトは一体何のためにあるのか。自然科学がそうであるように、仏教にも思想の発明や修行方法の発明など種々の発明がありました。

例えば専修念仏は発明でしょう。八万四千の法門と言われる仏教には、たくさん修行方法がある。だけど、どの修行方法からこぼれ落ちる人たちがいる。そういう人も含めてすべての人を救うためにどうすればいいか。そういう人たちを救うための教えだけを残して、あとは全部捨てればいいという。これは本当にすさまじい発想です。だから法然は天才的な思想家だと思ふのです。普通すべての人を救おうとするのと網を広げていい。でも、網そのものを捨てるという逆転の発想は発明に値すると私は思っています。

あるいは曼荼羅や梵字もそうです。今私たちが使っている言葉が悟りの世界を表現できないなら、悟りの世界を表現できる言葉をこっちで作っ



てしまえばいい、というので密教の体系ができる。もう一つ重要な発明があります。仏教史上最大になった後もたくさんのお寺は師になんとか再会したいと強く願っていました。しかし当初、仏教には仏像がありませんでした。物質的世界を乗り越えた超越者を、物質的世界で表現するとはなにごとだということで、ブッダそのものの表現は存在せず、その代わりに台座や菩提樹や法輪や足跡など、ブッダを思い出させるアイテムを信仰の対象としていました。

これがある時に、ブッダの似姿を作っても良いと仏教の伝統が変わるんです。京都の嵯峨に清凉寺というお寺があって、その釈迦如来像はインドの優填王^{うてんおう}、すなわちウダヤナという王様が作った仏像にルーツがあると言われていいます。亡くなったお母さんに説法をするためにブッダが天に行き、地上からいなくなったことで、優填王は悲しみます。その代わりにブッダの似姿を作って拜んでいました。ブッダが戻ってきた時に仏像が動き出してブッダを恭しく迎えた。ブッダはその功德ある行いを称賛して、私がない時はこの仏像を置けばいいと許可したという伝説があります。大乘仏教ができる紀元前後ぐらいに、ガンダーラなどで仏像が本格的に作られ始めました。それはブッダとの邂逅を求めた人たちが編み出した発明でした。それによって仏教は今の形になっていると言って良いくらい大きな存在です。

仏像の周辺には、例えば観仏体験が、観無量寿経や般若三昧経といった聖典に描かれる。あるいは経典の文言とか経典への信仰とか、仏塔への信仰というのも全部ブッダの代わりの「身」なんです。それと同じく仏像がある。そういったものを仏教徒は次から次へ作り出して自分たちの信仰を繋いできた。祈る心は大事ですが、ただ拜んで

いたから繋がったわけではなくて、文化を発明することで仏教は存続していったと見ることが出来ます。仏像とセットで大乘仏教の中で大きく発展したのが先ほどお伝えしたブッダの「身」の教えです。ブッダの存在は、永遠であると同時に我々が触れ得るものという、二つの命題を両立させる必要がありました。諸行無常ではなく常の存在であれば、無常の我々とは、存在の位相が異なるので、本来コンタクトできないはずなんです。だったら永遠のブッダと無常のブッダの両方がいれればいいとなる。そこでレイヤーができます。この世界に実際に現れたブッダと別に、仏教徒が考えたのが永遠のブッダたる法身です。法そのもののブッダと、肉体を持った生身のブッダというレイヤーがあって、間に報身ができて、この世界にいるさまざまな人、さまざまな環境に合わせて、さまざまなブッダがこの世界に現れると同時に、ブッダは永遠の存在でもあり得るようになりました。

—— 対機説法のようにですね。

我々の存在のあり方や、認識の構造が多様だから、多様なブッダが存在する双方向的関係なんです。存在論と認識論が互いに補い合う形で、

ブッダの存在を決め、我々のコミュニケーションのあり方を決めて、その間に仏像のような媒介が置かれるというのが仏教の一つの科学です。

その際のキーワードが変化身です。衆生を救うために、衆生の素養や好みに合わせて多様な姿に変化するのには仏教の救済者の特徴です。そのように無限に変化するこの世界に現れた救済者というのが、生身としての仏像の意義であり、仏教の世界観、仏教の科学、ブッダの存在論、我々の認識論、それらの中から編み出されてきたものです。

ブッダボットプロジェクトには確かに問題はあります。我々が未熟なのは間違いない。ただ我々は、思想史からみて以上のような流れの上にいると考えています。課題は、AIが変化身足りうるかです。AIの言葉は仏説なのかとか、AIが経典を作るのかという方向にも疑問が広がっています。人によっては冒涇だと言うかもしれない。しかし本当にそうでしょうか。以上が私たちの考える仏教の世界観だとしたときに、AIの言葉を仏説ではないと切り捨てる方こそ非仏教的なのではないでしょうか。

それが重なり合う視点の宗教側から見た一つの答えです。仏教の知性、インスピレーションの復元は、文献やフィールドを通じてこの先も進めていきます。知性の断片が出てきたら、それを機械

学習や文理融合研究で統合し、最終的には前近代の日本人の知性を再現し、彼らのインスピレーションの在り方みたいなものを復元し、我々がそこから学ぶ。この世界の問題を解決する方法を彼らから教わることができれば一番いいと考えています。



亀山隆彦

2013年、龍谷大学大学院文学研究科仏教学専攻博士課程修了(博士[文学])。その後、米国仏教大学院博士研究員、龍谷大学世界仏教文化研究センター・アジア仏教文化研究センター博士研究員、京都大学人と社会の未来研究院研究員を経て、2024年より京都大学人と社会の未来研究院上廣倫理財団寄附研究部門特定准教授。専門は日本思想・文化研究、日本仏教学、日本宗教学、密教学。著作に、『平安期密教思想の展開：安然の真如論から覚鑿の身体論へ』(2023年、臨川書店)、『中世禅の知』(共著、2021年、臨川書店)等がある。

寺院に係る給与や報酬に係る源泉徴収事務をもっとしつかりしないと、仏教界のイメージダウンに

源泉徴収制度と寺院

公益財団法人全日本仏教会 監事

公認会計士、税理士 木村匡成

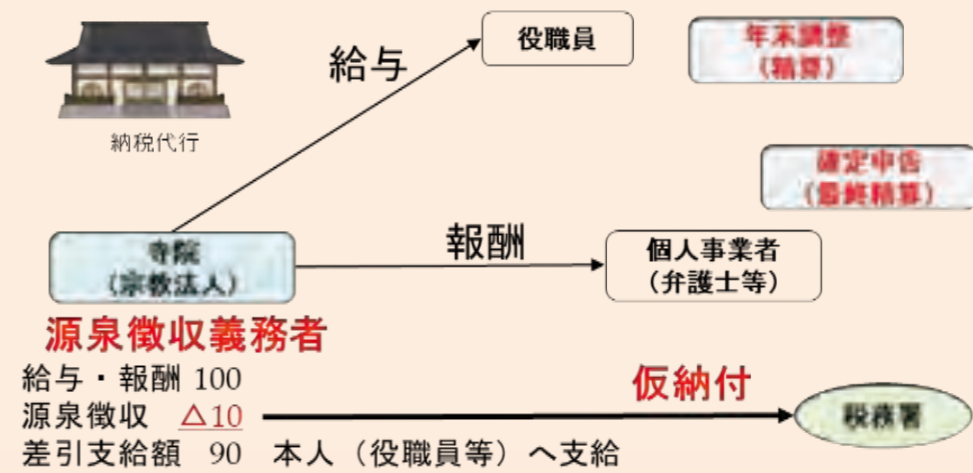
1. 税務調査状況

少し前になるが、「2024年6月までの過去1年間の宗教法人(寺院含む)に対する税務調査で、源泉徴収漏れ等により15億円程度が追徴課税(指摘件数1,429件/宗教法人調査件数1,975件)された」旨の新聞報道があった。指摘された宗教法人の平均追徴税額(追加本税+加算税+延滞税)は100万円程度と少額ではあるが、宗教法人の源泉所得税に対する対応不備が浮彫りとなった。宗教法人の源泉所得税に対する意識は比較的低く、寺院でも布施収入計上漏れや給与や報酬に対する源泉徴収失念・誤りなどの指摘がされている。世間では宗教法人が全く税金を納めていないと勘違いしている側面もあり、税金ごまかしの誤解を与えるとしたら、更なるイメージ低下となる。メンバーシップたる檀門信徒等から寄進、貢献で成り立つ寺院は、歴史・伝統ある社会的存在であり、住職等責任役員は過去から蓄積

された浄財等財産の適正管理や収支記録徹底が必要と考える。これらの状況を踏まえ、本稿では源泉徴収制度と寺院の対応について記述をしたいと考える。

2. 源泉徴収制度

源泉徴収制度は、個人所得税額の徴税方法で所得税法の一部を構成する。寺院の役員に対する給与や外部者(講演者、弁護士等)に対する報酬等の支払に関し、寺院(宗教法人)「源泉徴収義務者」が当該個人の所得税を源泉徴収し、税務署へ納付する仕組みをいう。源泉所得税は仮払いであり、最終的には年末調整(給与所得)や確定申告(各個人)で精算される。徴税確保や取引捕捉のため、給与・報酬の支払者(源泉徴収義務者)に源泉徴収義務を任せ、適正に実施しない場合に「源泉徴収義務者」にペナルティを課すのである。



〈源泉徴収関連図：例〉

(1) 源泉所得税制度導入

源泉所得税制度は1938年に戦費調達等を目的に導入、所得税の徴税方法として全体所得税徴収額の8割程度(源泉所得税収約17兆円/所得税収約21兆円)を占める徴収確保手段として有効に機能する。さらに取引捕捉目的、特に「個人」の取引の把握のため、給与・報酬の支払側に源泉徴収義務を負わせることで申告所得漏れ防止の役割も果たす。また、「源泉徴収義務者」(寺院)が適正に徴収・納付しない場合にペナルティ(追徴課税等)を課すことで制度担保している。

(2) 源泉徴収対象所得

源泉徴収対象となる所得は所得税法204条等に列挙されるが、寺院が関わる主なものは以下のとおりである。限定列挙された源泉所得課税に該当する報酬等が対象となる。

〈源泉徴収対象等〉

主な源泉対象所得	源泉徴収額算定等
役員に対する給与、賞与等	源泉徴収税額表(甲乙丙等)
外部者(個人)への報酬(原稿・講演、専門家、芸能関係等)	例) 報酬100万円まで10.21%、100万円超は20.42%など

(1) お布施

お布施は、宗教行為に対する謝礼、御本尊へのお供えで喜捨等に該当、宗教活動そのものではない。法人税課税はない。また、対価性もないとされ、消費税も不課税である。お布施の範囲は多岐に渡るが、宗教儀礼(法要、読経、戒名等)や御膳料(会食不参加)、お車代(旅費等)などがあり、寺院に帰属するものは全て寺院で計上すべきものである。住職等個人がこれら収入を收受(個人の懐・個人口座入金)すると着服とされ「給与課税」される。住職個人の着服だから個人所得課税となるのであるが、寺院は「源泉徴収義務者」となっており、「給与額」計上漏れ分の源泉所得税に関する追徴がされ、寺院がペナルティ(追徴課税)を負うことになるのである。お布施計上漏れは税務調査ポイントの一つで、相続税申告書第13表(債務控除)の葬式費用額と実際の寺

お布施範囲(法事:法要、会食...)
・宗教的儀礼(法要*、読経、戒名...)
・御膳代(会食不参加)
・お車代(旅費等)
...
*忌日・年忌法要

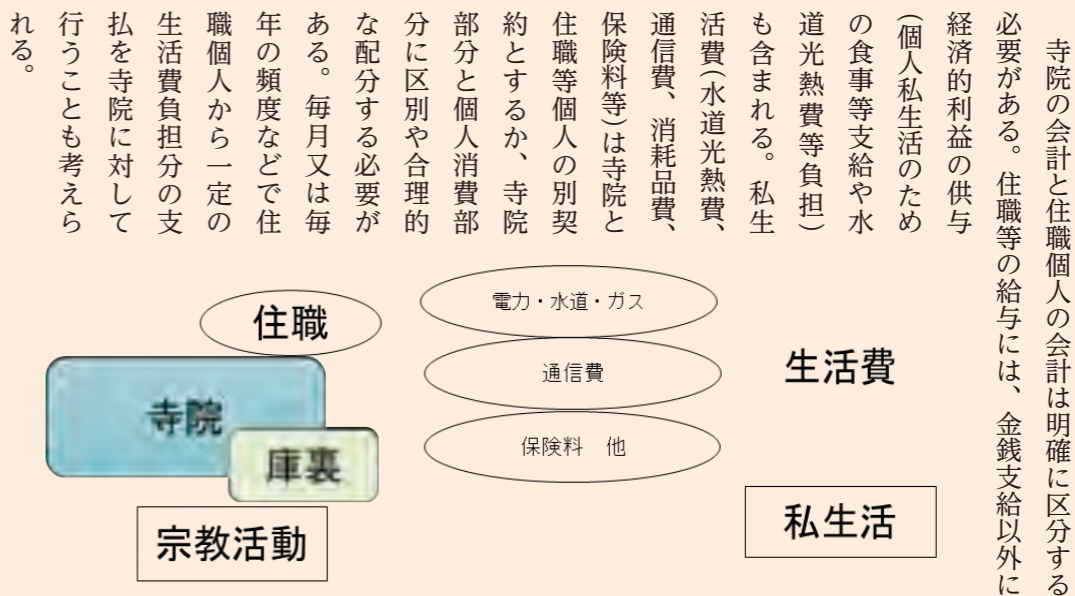
(2) 過去帳

院の布施収入額の比較なども参考とされる。

税務調査では布施収入計上漏れを把握する等の目的から過去帳(檀信徒等の家系ルーツ・歴史、俗名・戒名・没年月日・享年等)の提示が求められることがある。ただし、過去帳には信教の自由、個人情報、センシティブな情報(地域風習、同和問題等)を含むことがあること、また、会計記録に直接関わる帳簿ではないことなどを理由に、開示は原則として拒否すべきと考える。秘匿情報流出による被害や損失には十分配慮すべきであり、また、宗教法人法84条でも、国等機関の宗教法人に対する調査・検査等では信教の自由や宗教法人の特性に配慮した対応が求められている。ただし、寺院において、布施収入計上漏れの疑義や会計データ不備のケースでは提出要求は強くなくことがある。

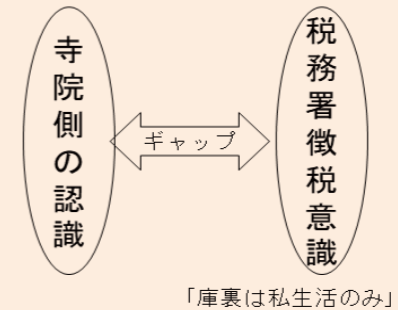
(税務調査等)
過去帳等提示要求⇒宗法84条や個人情報保護等⇒開示拒否
宗教法人法84条
(宗教上の特性及び慣習の尊重)

(3) 寺院と住職個人の区分



(4) 庫裏

庫裏は境内地内の住職・寺族の生活場であるが、宗教活動も実施されている。庫裏での住職・寺族等の私生活部分の寺院の経費負担が問題になる。庫裏の使用実態に合わせ、負担関係を説明することになるが、課税当局側は「庫裏は私生活のみ」と考えることがあるので注意を要する。寺院側は庫裏の宗教活動での使用実態を正確に説明していく必要がある、実例として、宗教活動実施、宗教事務、打合せ・会議実施、檀信徒対応・接待、宗教活動備品等保管場（PC、プリンター、サーバー、関係帳簿・書類等）などがある。



(5) 先代住職の法要

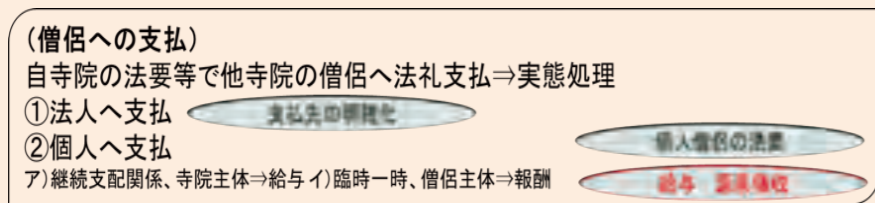
先代住職の年忌法要等は一周忌、三回忌、七回忌……と実施される。当該行事の寺院負担はいつまでかと問題になることがあるが、これは寺院の公式行事かどうか、檀信徒教養普及、教化育成などの当該法要の目的によるものと考えられる。檀信徒等への法要案内や責任役員会等承認で、先代住職功績・貢献を称え、寺院の公式な法要等実施し、内容・目的を明示する檀信徒参加法要は宗教活動と考えられ、寺院の必要経費である。一方で、檀信徒でない親族のみ参加の法要・会食は個人的な会合と考えられ、給与認定されることがある。

(先代住職の法要費、会食代)

- ・寺院公式行事、檀信徒含め法要・会食→必要経費
- ・檀信徒でない親族のみ・個人的支出で給与課税リスク
- ・一周忌、三回忌、七回忌……

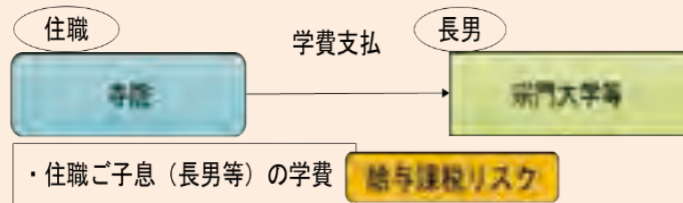
(6) 他寺院の僧侶への法礼支払

各寺院では、他の僧侶へ法要等の手伝いや法要の依頼し、謝礼等を支払うことがある。この場合に、当該僧侶の所属する寺院(宗教法人)に支払う報酬は源泉所得税(法人向け)対象とならない。ただし、僧侶個人への支払となると、当寺院と他の僧侶との継続関係や支配関係の有無などにより、給与課税とされることがある。当寺院と他の僧侶との契約関係などを事前に明確にしておく必要がある。



(7) 住職(代表役員)のご子息の学資金負担

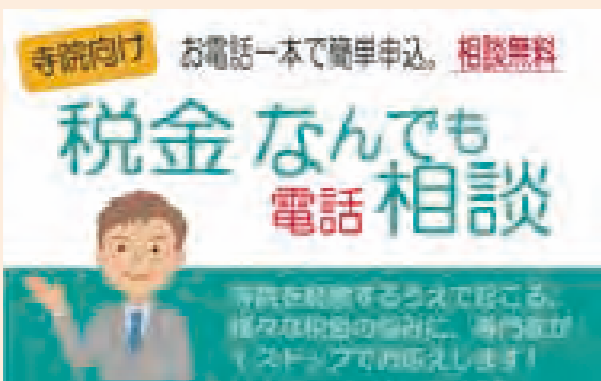
僧侶になるための宗門大学学費等(教養等知識技術習得など)は原則寺院の経費となるが、責任役員又は責任役員等と特別な関係(親族、生計一等を有する者)には給与課税があるため注意が必要である(所得税法9条、所得税法施行令29条、所得税基本通達9-14、16)。これは他の職員等との公平性の観点から、責任役員等と特別な関係を有する者に対する学資金の給与課税とするものである。



の実態を正当に主張するのである。寺院は長く歴史的、社会的な基盤を持ち、深く社会に浸透しているが、社会環境変化の厳しい中、生き残りを図る状況にある。社会的事件や不祥事、管理不備露呈の一般社会からのイメージダウンを避け、長く蓄積する檀信徒等からの浄財や財産の守ることもや安定的寺院運営のためにも、基本に忠実で適正な収支・財産管理が望まれる。

4. 最後に

課税当局に強く主張するためには、日々の収支記帳や会計・税務管理を適正にせねばならない。適正な管理状況をベースに、宗教活動や寺院運営



【お問い合わせ】
公益財団法人 全日本仏教会 財務部
電話：03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

【黄檗宗】大本山萬福寺の諸堂、

国宝に指定

2024年10月、本会に所属する黄檗宗の大本山、萬福寺の主要な建築物が、国宝に指定されました。指定されたのは、本堂の「大雄寶殿」、説法を行う「法堂」、お寺の玄関にあたる「天王殿」の三棟です。日本の伝統建築と、隠元禪師が来日した明末清初期の中国の福州の建築様式の特徴を融合させた、独自の様式を有していることが評価されたとのことです。この度、それらを紹介するため萬福寺を訪れました。



大雄宝殿



法堂



天王殿

訪れたのは11月半ば。外国人観光客と修学旅行生でこった返す京都駅からJR奈良線に乗って20分ほどの黄檗駅で降りると、萬福寺は歩いて5分ほどの所にあります。伏見稻荷大社がある途中の稻荷駅までは観光客で列車内があふれ、都会の通勤電車のようにでしたが、そこからたった数分で、静かで落ち着いた空間があらわれます。夏から続いた季節はずれの暑さがようやく

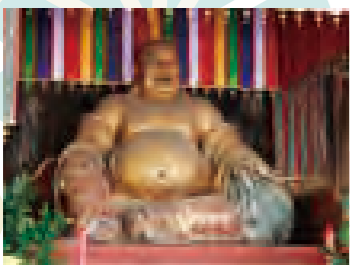


隠元禪師が側面に描かれた自動販売機

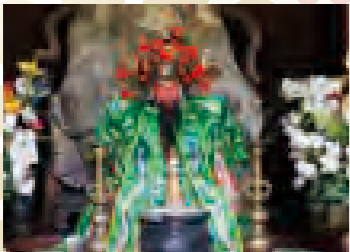
収まり始めて心地よい秋晴れの中、萬福寺の富岡昭岳執事に案内していただきました。萬福寺は1661年、インゲン豆にその名を残す「隠元隆琦禪師」によって開創されました。度重なる日本からの要請を受け、1654年に63歳で日本にやってきた隠元禪師は、4代將軍徳川家綱公から宇治に土地を賜り、新寺を開創した際、中国の福建省福州にあった自坊と同じ名前を付けました。禪師は後水尾天皇を始めとする皇族、幕府の要人や大名や庶民の尊崇を集めたばかりでなく、将来した文物が広汎にわたったため、印刷術

や明朝体や原稿用紙、煎茶、普茶料理など、その後の日本文化に多大な影響を及ぼしました。富岡執事は「文化財が多くある京都という土地で、ちょっと離れたこの萬福寺が国宝に指定されたのはたいへん喜ばしいことです」とおっしゃいます。

明朝期の中国の影響が色濃く残っているのは、境内を歩いていても感じるってきます。お寺の玄関にあたる「天王殿」で迎えてくれるのは、七福神の一つとして知られる布袋さん、弥勒菩薩の化身です。また、伽藍堂では三国志でおなじみで、中国では神として祀られている関羽を見る事ができます。他にも日本のお寺にはない異国情緒をそこかしこに感じることができ



弥勒菩薩(布袋)坐像



関帝菩薩(関羽)



普茶料理(事前の予約が必要です)

るので、訪問した際は探してみるとよいでしょう。

萬福寺は「普茶料理」でも有名です。普茶とは「普く」衆人と「茶」を供にするの意で、隠元禪師が日本にもたらした中国式の精進料理です。麻腐と呼ばれる胡麻豆腐を始めとして、季節の野菜の揚げ物である油苺など、ヘルシーだけど高タンパクなコース料理が並びます。優しく上品な味付けと華やかな見た目で舌と目を喜ばせつ

つ、午後のひとときを過ごしました。

食事を終えて帰る際、境内では結婚式を控えて写真撮影に臨む若いカップルや、外国人観光客を案内する夫婦など、みな思い思いに過ごしています。オーバーツーリズムがとかく問題になりがちな昨今の京都ですが、ここにはゆったりとした時間が流れています。京都に立ち寄った際は、ぜひ足を伸ばしてみてください。



黄檗宗大本山 萬福寺
 〒611-0001 京都府宇治市五ヶ庄三番割34
 TEL 0774-313900
 JR奈良線「黄檗駅」下車 徒歩5分
 京阪宇治線「黄檗駅」下車 徒歩5分

新年お慶び申しあげます



高野山真言宗
総本山金剛峯寺

管長 長谷部 真道
 宗務総長 今川 泰伸
 執行局長 近藤 本淳
 執行局長 加藤 榮俊
 執行局長 竹井 成範
 執行局長 津田 哲哉
 執行局長 藪 邦彦
 執行局長 岸本 優宏
 執行局長 藤本 善光
 執行局長 後藤 友栄
 執行局長 立葉 了禅
 執行局長 大森 照龍
 執行局長 仁賀 大善
 執行局長 東山 教清
 執行局長 永崎 亮寛
 執行局長 柏田 良辯

高野山京都別院主監
 高野山東京別院主監
 加藍維那
 奥之院維那
 靈宝館館長
 教学部長 長谷部 真道
 国際局長代理 長谷部 真道
 教学部長 長谷部 真道
 高野山こども園長 長谷部 真道

〒648 0294 和歌山県伊都郡高野町高野山一三二
 TEL 〇七三六(五六)二〇一一
 FAX 〇七三六(五六)四六四〇

新年お慶び申しあげます



曹洞宗宗務庁

管長 南澤 道人
 宗務総長 服部 秀世
 参議 熊谷 紘全
 参議 渡邊 義弘
 教学部長 深川 典雄
 人事部長 喜美候部 謙史
 教化部長 藏山 大顕
 伝道部長 高橋 英寛
 総務部長 圓通 良樹
 出版部長 伊藤 弘隆
 財政部長 服部 直哉

東京都港区芝二一五一
 〒105 8544 〇三(三四五)四五四一
<https://www.sotozen-net.or.jp/>

臨濟宗妙心寺派宗務本所

管長 山川 宗玄
 宗務総長 野口 善敬
 総務部長 堀尾 行覚
 花園会館長(兼) 堀尾 行覚
 教学部長 足立 宜了
 財務部長 真常 紹天
 本部会長 小林 秀嶽
 花園会 吹田 良忠
 法務部長 吹田 良忠

〒616 8034 京都市右京区花園木辻北町一
 TEL 〇七五(四六三)三二二一
 FAX 〇七五(四五)一三七一
<https://www.myojinji.or.jp/>

興祖微妙大師
650年
遠禱大法会

浄土真宗本願寺派

総長 池田 行信
 総務 荻野 昭裕
 総務 藤山 憲照
 総務 中尾 史峰
 副総務 河原 善雄
 子ども若者二線 づくり推進室長

〒600 8501 京都市下京区堀川通花屋町下る
 浄土真宗本願寺派 宗務所
 TEL 〇七五(三七)五一八一
 FAX 〇七五(三五)一三七一
<https://www.hongwanji.or.jp/>

結ぶ絆から、
広がる
ご縁へ

天台宗

天台座主 大樹 孝啓
 宗務総長 細野 舜海
 参務部長 坂本 圭司
 参務部長 四竈 亮真
 参務部長 大角 実豊
 参務部長 村田 庸田
 参務部長 原 徳明
 参務部長 荒樋 勝善

一隅を照らす
運動総本部長

〒520 0113 大津市坂本四丁目六番二号
 TEL 〇七七(五七九)〇〇二二
 FAX 〇七七(五七九)二五一六
<https://www.tendai.or.jp/>

真宗大谷派
東本願寺
shinshu Otani-ha
Higashihonganji

宗務総長 木越 涉
 参務 古賀 堅志
 参務 那須 信純
 参務 長峯 顕教
 参務 佐々木 高
 参務 西受 秀文

研究指導 那須 信純
 儀式部長 那須 信純
 首都圏教化 那須 信純
 参務 古賀 堅志
 参務 長峯 顕教
 参務 佐々木 高
 参務 西受 秀文

〒600 8505 京都市下京区烏丸通七条上る
 常葉町七五四
 TEL 〇七五(三七)九一八一
<https://www.higashihonganji.or.jp/>

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院

管長 布施 浄慧
 宗務総長 三神 栄法
 総務部長 久保田 剛士
 教学部長 金子 隆昭
 教化部長 荒井 真道
 法務部長 足田 精栄
 財務部長 杉本 栄次
 宗務出張所長 別院 執事 宮田 隆伸

〒605 0951 京都市東山区東大路七条下ル
 東瓦町九六四
 TEL 〇七五(五四)一五三六一
<https://chisan.or.jp/>

浄土宗
「浄土宗二十一世紀劈頭宣言」
愚者の自覚を
家庭にみ仏の光を
社会に慈しみを
世界に共生を

浄土門主 伊藤 唯眞
 宗務総長 川中 光教
 宗務役員 吉水 仙昭
 宗務役員 中寫 正史
 宗務役員 茂木 恵順
 企画調整室長 名越 邦博
 職員一同

浄土宗宗務庁
 〒605 0062 京都市東山区林下町四〇〇、八
 TEL 〇七五(五二五)二二〇〇
 FAX 〇七五(五三一)五一〇〇五
 〒105 0011 東京都港区芝公園四、七、四
 TEL 〇三(三四三六)三三五一
 FAX 〇三(三四三四)〇七四四
<https://jodo.or.jp/>

真言宗豊山派宗務所

管長化主 川俣 海淳
 宗務総長 川田 興聖
 総務部長 吉田 真澄
 教化部長 小林 政彦
 教務部長 川城 孝道
 財務部長 藤原 静海
 教化センター長 島本 誠永
 真言宗豊山派
総合研究院院長 中川 祐聖

〒112 0012 東京都文京区大塚五、四〇、八
 真言宗豊山派宗務所
 TEL 〇三(三九五)〇六三九
<http://www.buzan.or.jp/>

日蓮宗
いのちの合掌

管長 菅野 日彰
 宗務総長 田中 恵紳
 伝道局長 柳下 俊明
 総務局長 光岡 潮慶
 伝道部長 長谷川 雄一
 教務部長 川久保 光隆
 総務部長 畑 栄明
 財務部長 笠井 照永
 宗務総長室長 秋山 文裕
 現代宗教研究所長 赤堀 正明
 参 与 渡邊 義生
 参 与 田中 智海
 日蓮宗新聞社 長 田邊 木蓮
 日蓮宗宗務院
 〒146 8544 東京都大田区池上二、三二、一五
 TEL 〇三(三七五)七一八一
 FAX 〇三(三七五)七一八六
<https://www.nichiren.or.jp/>

新年お慶び申しあげます



融通念佛宗
総本山大念佛寺

管 長 吉村 暲英

宗務総長 田中 瑞修
 寺務総長


教育学部長 沢田 善秀
 法務部長

庶務部長 好野 良博

財務部長 佐々木 智祥
 会計部長

〒547-0045 大阪市平野区平野上町一七二六
 TEL 〇六(六七九)〇〇二六
 FAX 〇六(六七九)三〇五〇
<https://www.dainenbutsuji.com>

法華宗(本門流)



管 長 久保木 日將

宗務総長 金井 孝顕
 布教部長 三吉 廣明
 総務部長 平田 義生
 財務部長 久野 晃秀
 企画部長 吉崎 長生

教育学部長 松井 正孝
 宗務総長

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二一九一
 TEL 〇三(五六一四)三〇五五
 FAX 〇三(五六一四)三〇五六
<http://www.hokkeshu.or.jp>

法華宗(陣門流)

管 長 鈴木 日慧

宗務総長 西山 英仁
 総務部長 牧野 秀成
 企画部長 金原 孝宜
 財務部長 西山 聡達
 教育学部長 布施 義高
 教化部長 松吉 慶憲
 宗務参事 田中 隆寛
 宗務参事 田内 孝照
 宗務参事 竹内 敬雅

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五三五六
 TEL 〇三(三九一八)七二九〇
 FAX 〇三(三五七六)〇一一一
<https://www.shitennoj.or.jp>

顕本法華宗

管 長 大川 日仰

宗務総長 秋葉 敬真
 宗務次長 津村 乗信
 庶務部長 秋山 事遷
 布教部長 川崎 英真
 社会部長 中村 文治
 財務部長 島田 誠岳
 教務部長 藤崎 裕学

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九十一
 TEL 〇七五(七九)七二七一
 FAX 〇七五(七九)七二六七

一般財団法人 埼玉県佛教会

会 長 倉持 秀裕

副会長 加藤 玄静
 同 山口 正純
 専務理事 深谷 雅良
 常務理事 河野 亮玄
 同 馬場 知行
 同 井倉 賢照
 同 穂積 容山
 事務局 金子 嘉広

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂四一三、一八
 TEL 〇四八(八六)二一三八
 FAX 〇四八(八六)六六四九
<http://saibutunet/>

新年お慶び申しあげます



天台真盛宗
総本山西教寺

管 首 長 武田 圓寵

宗務総長 市川 隆成
 執事 長

教育学部長 兼子 鐵秀
 社会部長 西澤 義宏
 財務部長 橋爪 真全
 庶務部長 鈴木 康之

〒520-0113 滋賀県大津市坂本五、一三一
 TEL 〇七七(五七八)〇〇一三
 FAX 〇七七(五七八)三四一八

天台寺門宗

管 長 村上 法照

宗務総長 明石 清澄
 教育学部長 小林 慶明
 財務部長 川合 弘曜
 修験道部長 秋田 幸輝
 庶務部長 加藤 明信
 録 事 三島 宗覚

〒520-0036 滋賀県大津市園城寺町二四六
 TEL 〇七七(五二二)五一一〇
 FAX 〇七七(五二二)五一二八

大日本佛法最初 四天王寺

管 長 瀧藤 尊淳

執事 長 南谷 惠敬
 宗務部長 兼務 四天王寺学園理事長
 法務部長 四天王寺福祉事業団理事長
 総務部長 新井 順證
 財務部長 宮崎 光映
 参詣部長 山岡 武明
 学校教育部 坂本 峰徳
 学校教育部 森田 惇朗
 社会福祉部 塚原 昭應
 社会福祉部 廣瀬 善重
 四天王寺福祉事業団常務理事

〒543-0051 大阪府大阪市天王寺区四天王寺一丁目十一番十八号
 TEL 〇六(六七七)〇〇六六
 FAX 〇六(六七七)四九二一
<https://www.shitennoj.or.jp>

総本山仁和寺 真言宗御室派

管 門 長 瀨川 大秀

執行 長 大林 實温
 宗務 長 大田 清樹
 執行 長 橋本 高諄
 執行 長 松永 真和
 執行 長 三好 祥徳

〒616-8092 京都市右京区御室大内三三
 TEL 〇七五(四六一)一一五五
 FAX 〇七五(四六四)四〇七〇
<https://nimaji.jp>

真言宗醍醐派宗務本庁 総本山醍醐寺事務所

管 座 主 長 壁瀬 宥雅

宗務 長 大原 弘敬
 執行 長 仲田 順英
 執行 長 浦郷 宜右
 執行 長 三好 祥徳

〒610-1325 京都市伏見区醍醐東大路町二二
 TEL 〇七五(五七)〇〇〇二
 FAX 〇七五(五七)〇一〇一
<https://www.daijogji.or.jp>

新年お慶び申しあげます



公益社団法人 日本仏教保育協会

名誉会長 小澤 憲珠
 理事長 高山 久照
 副理事長 高輪 真澄
 副理事長 長谷川 弘顕
 副理事長 日野 昭文
 副理事長 田中 雪心

伝えよう 生命の尊さ ほとけの心

〒105 0011 東京都港区芝公園四・七・四 明照会館二階
 TEL 03(3431)7475
 FAX 03(3431)1519

新年お慶び申しあげます



神奈川県仏教会

会長 佐藤 功岳
 副会長 菅原 節生
 同 高作 泰寛
 同 河本 岡文
 事務局 横溝 常之

〒231 0859 横浜市中区大平町九六 西有寺内
 TEL 045(六六一)0166

聖観音宗 浅草寺

賞首 田中 昭徳
 執事長 守山 雄順

〒111 0032 東京都台東区浅草二・三・一
 TEL 03(3842)0181
 FAX 03(3845)6933

金峯山修験本宗 総本山金峯山寺

管長 五條 良知
 宗務総長 執行長 五條 永教

〒639 3115 奈良県吉野郡吉野町 吉野山二四九八
 TEL 0746(三三)8371
 FAX 0746(三三)4563
<https://www.kinpusen.or.jp>

愛知県仏教会事務局

会長 曹洞宗 輕部 浩史
 副会長 曹洞宗 山田 泰信
 副会長 曹洞宗 酒井 泰俊
 副会長 西山浄土宗 林 大晃
 理事長 真宗大谷派 後藤 順生
 顧問 真宗大谷派 伊藤 正導
 顧問 浄土宗 岩木 涼山

〒497 0036 愛知県海部郡蟹江町 須成西七丁目六六一一 松秀寺内
 TEL 0567(九五)3010

念法真教

総本山小倉山金剛寺
 燈主 桶屋 良祐

〒538 0054 大阪市鶴見区緑三・四・二二
 TEL 06(六九一)2101
<https://www.nenpoushinkyou.jp>

孝道教団

統理 岡野 正純

〒221 0064 横浜市神奈川区鳥越三八
 TEL 045(四三二)1201
 FAX 045(四三四)1188

京都府仏教連合会

理事長 貴田 善澄
 理事 藤實 無極
 同 木越 涉
 同 野口 善敬
 同 三神 崇法
 同 大原 弘敬
 同 小田 和幸
 同 荻野 昌彦
 同 奥垣内 圭哲
 同 佐藤 泰慎
 同 三縁 勝弘
 同 久下 浩文
 同 石津 幸次
 同 柴田 康仁
 同 加藤 良邦
 同 八木 浄辰
 同 赤塚 日辰
 同 末本 樹哉
 同 橋本 周現
 同 山本 正廣
 同 稲岡 正純
 同 西山 恵龍
 同 柏田 良辯
 同 安田 真源
 同 明山 年洋
 同 秦 直樹
 同 井上 正顕
 同 新谷 仁海

事務局長 京都府東山区林下町四〇〇 総本山知恩院内
 〒605 8686 TEL 075(53)2111 FAX 075(53)0099

真言宗須磨寺派 大本山須磨寺

賞主 小池 弘三

〒654 0071 神戸市須磨区須磨寺町四・六八
 TEL 078(七三一)0416

真言宗大覚寺派 大本山大覚寺

大覚寺寺号勅許(開創) 一一五〇年記念法会令和八年厳修

管長 山川 龍舟
 宗務総長 執行長 堤 大恵

〒616 8411 京都市右京区嵯峨大沢町四
 TEL 075(八七一)0071
 FAX 075(八七一)0055
<https://www.daijakujior.jp>

大阪府佛教会 大阪府佛教会創立六十周年記念事業 第47回 全日本仏教徒会議 大阪大会

日時：二〇二五年九月五日～六日
 会場：ホテル日航大阪

大会テーマ
無量の「いのち」
 (すべてのいのちを慈しむ) 皆様のご参加 お待ち申し上げます

会長 村山 廣甫 (曹洞宗 東光院)
 副会長 森 快隆 (真言宗 葛井寺)
 同 南谷 恵敬 (和宗 四天王寺)
 同 清澤 悟 (真宗大谷派 願徳寺)
 同 吉村 常妙 (日蓮宗 妙長寺)
 同 丹農 秀知 (浄土宗 専修寺)
 同 立石 泰教 (高野山真言宗 釈迦院)
 事務局 二上 寛弘 (浄土真宗本願寺派 淨泉寺)
 事務局 大阪府港区築港一十三・三釋迦院内
 〒552 0021 TEL 06(六五七)5710

真言三宝宗 大本山清澄寺

法主 坂本 光謙
 宗務長 國定 道晃
 執行長 森藤 晃正
 鉄斎美術館 長 森藤 光宣

〒665 0837 宝塚市米谷字清一 一番地
 TEL 0797(八六)6641
 FAX 0797(八六)6660
<http://www.kiyoshikojin.or.jp>

真言宗中山寺派 大本山中山寺

長 老 今井 淨圓

〒665 8588 宝塚市中山寺二丁目十一・一
 TEL 0797(八七)0024
 FAX 0797(八七)9877
<https://www.nakayamadera.or.jp>

公益財団法人 仏教伝道協会

会長 木村 清孝
 理事長 沼田 恵明
 理事 松丸 壽雄
 理事 門脇 邦彦
 理事 野村 邦武
 理事 生田 忠士
 理事 塩入 亮乗
 理事 逸見 道郎
 理事 中野 東禪
 理事 松村 智司

〒108 0014 東京都港区芝四丁目三・一四
 TEL 03(3455)5851
 FAX 03(3798)2758
<https://www.dkt.or.jp>

新年お慶び申しあげます



茨城県仏教会

会長 井上 光基
副会長 黒澤 彰哉
副会長 徳永 光由
副会長 奥田 俊裕
事務局長 渡邊 真也

〒311-4333 茨城県東茨城郡城里町高根一八
大山寺内
TEL 029(289)2090
FAX 029(289)2048
<https://www.ibarakibukkyou.com/>

福島県仏教会

会長 秋山 孝雄
専務理事 三瓶 信晃
事務局長 熊田 秀海
広報 佐藤 教順
会計 高桑 清二
庶務 大竹 信仁

〒963-0201 福島県郡山市大槻町字上町七
長泉寺内
TEL 024(951)1628

新潟県仏教会

会長 佐藤 義尚

〒940-0217 新潟県長岡市榎尾大町五十四
宝光院
TEL 0258(52)2425

東京都仏教連合会

会長 田中 昭徳
理事長 三吉 廣明

〒111-0036 東京都台東区松が谷二十九七
涼源寺内
TEL 03(3844)9597
FAX 03(3844)3177

滋賀県仏教会

会長 武田 圓龍

〒520-0013 滋賀県大津市坂本五十三一
総本山 西教寺内
TEL 077(578)0013
FAX 077(578)3418

山梨県仏教会

会長 千野 宗雄
副会長 清雲 俊雄
顧問 武田 智宏
近藤 英夫

〒409-1313 山梨県甲州市勝沼町下野崎一七八八
TEL 0553(44)1915
FAX 0553(44)1915

愛媛県仏教会

会長 山崎 忠司
副会長 谷川 龍玄
副会長 香川 則雄
監事 東影 大地
監事 久松 宝詮
事務局長 二宮 泰教
書記 五葉 良宗
顧問 櫻井 雅之
顧問 越智 友巖
顧問 仁田 喜潤
顧問 智和 智幸

〒796-0421 愛媛県西宇和郡伊方町九町
四七二五 天徳寺内
TEL 0894(39)0050
FAX 0894(39)0050

岡山県佛教会

会長 石原 伸俊
副会長 北山 孝治
同 中村 栄恭
同 大畠 博道

〒710-0012 岡山県倉敷市鳥羽三九〇
TEL 086(462)2346

公益財団法人 国際仏教興隆協会

理事長 中村 康雅

〒153-0061 東京都目黒区中目黒五二四五三
TEL 03(371)7608
FAX 03(371)7673

公益財団法人 全日本仏教 婦人連盟

会長 東伏見 具子
副会長 加用 稔子
同 吉田 真理
理事長 花岡 真理子

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷
四・五・十一・二〇五
TEL 03(577)0677
FAX 03(643)0184
<https://jbwf.jp>
E-mail: info@jbwf.jp

新年お慶び申しあげます



西山浄土宗 総本山光明寺

管主 沢田 教英
宗務総長 柴田 康仁

〒617-0811 京都府長岡京市粟生西条の内
二六番地の1
TEL 075(955)0002
FAX 075(953)2264
東京別院
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘二二一
TEL 042(794)8585
<https://www.komyo-ji.or.jp/>
横浜分院
〒223-0053 神奈川県横浜市港北区綱島西三二四
TEL 045(544)4894

東寺真言宗

宗務総長 吉村 増亮

〒601-8473 京都市南区九条町一
東寺真言宗宗務庁
TEL 075(672)3717
FAX 075(661)6856

臨済宗南禅寺派 大本山南禅寺

管主 有馬 頼底
宗務総長 佐分 宗順

〒606-8435 京都市左京区南禅寺福地町八六
TEL 075(771)0365
FAX 075(771)6989
<https://www.shokoku-ji.jp/>

時宗

法主 東山 心徹

〒251-0001 神奈川県藤沢市西富一八八
TEL 0466(23)7276

臨済宗相国寺派 大本山相国寺

管主 横田 南嶺
宗務総長 永田 正和

〒247-0062 鎌倉市山ノ内四〇九
TEL 0467(22)0478
FAX 0467(23)3027
<http://www.engakuji.or.jp>

法華宗(真門流)

管主 上田 日猷
宗務総長 堀内 浩善
総務部長 坂本 法保
教学部長 峰尾 泉栄
教化部長 舟積 法宏
社会部長 水野 智悠
財務部長 掘 雅博

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通五辻上る
紋屋町三三〇
TEL 075(441)5762
FAX 075(441)5666
<http://www.hokkeshu.jp/>

本門佛立宗 本山宥清寺

講主 有木村 日覚
宗務総長 亀井 日魁

〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入る
滝ヶ鼻町一〇五番地一
TEL 075(463)4620
FAX 075(463)4651
本門佛立宗 宗務本庁
〒602-8377 京都市上京区御通一条上る
東堅町一〇番地
TEL 075(461)1666
FAX 075(464)5599
京都佛立ミュージアム
TEL 075(288)3344
URL <https://www.hbmmuseum.jp>

真言律宗 総本山西大寺

真言律宗管長 松村 隆誉
真言律宗宗務長 辻村 泰範
総本山西大寺長老

〒631-0825 奈良市西大寺芝町一丁目一〇五
TEL 074(245)4700
FAX 074(245)4720

青森県仏教会

会長 築田 成義
監事 葛原 隆男
監事 和泉 順生
事務局 中谷 正幸
事務局 鷹背 観道
会計 若狭谷 良行

〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村尾駮字野附三九四
TEL 0175(72)2168
FAX 0175(72)2194

真言律宗 総本山西大寺

真言律宗管長 松村 隆誉
真言律宗宗務長 辻村 泰範
総本山西大寺長老

〒631-0825 奈良市西大寺芝町一丁目一〇五
TEL 074(245)4700
FAX 074(245)4720

新年お慶び申しあげます



賛助会員

【団体会員】

- 京セラ株式会社(電子機器製造)
- 株式会社カナメ(建設)
- 大建工業株式会社 国内製造企画部(建設)
- 松井建設株式会社(建設)
- 住友林業ホームテック株式会社(住宅・建築事業)
- 株式会社金剛組(寺院建築)
- 損害保険ジャパン株式会社(保険)
- 第一生命保険株式会社(保険)
- 大和証券株式会社 法人コンサルティング部(ビジネスサポート)
- 野村證券株式会社 金融公共公益法人部(金融)
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 本店金融公共法人第一部(金融)
- 株式会社ストライク(M&A仲介)
- 株式会社大陸旅遊(旅行)
- 株式会社ピーエス観光(旅行)
- 近畿日本ツーリスト株式会社(旅行)
- 東武トップツアーズ株式会社(旅行)
- 株式会社JTB ツーリズム事業本部(旅行)
- 日本テンブルヴァン株式会社(寺院経営コンサルティング)
- 株式会社TERASU(寺院サポートコンサルティング)
- 株式会社アンカレッジ(寺院運営サポート・企画)
- 有限会社新宿アカウンティングオフィス(経営コンサルティング)
- 株式会社縁(社寺仏閣総合リスクコンサルティング)
- 8 infinity株式会社(社寺仏閣の総合経営支援)
- 株式会社東海大阪レンタル(イベント・レンタル)
- 株式会社エコ・マイニング(環境・エネルギー)
- 株式会社オメガ・コミュニケーションズ(翻訳・出版物企画・制作)
- 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション(出版物企画・制作)
- ディーエムソリューションズ株式会社(物流・デザイン)
- 新日本法規出版株式会社(法規図書出版)
- 株式会社広済堂ネクスト(印刷・IT・WEB・求人広告・人材サービス)

- キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社(印刷・機器販売)
- 株式会社漫画家学会(漫画・紙芝居)
- 株式会社ルンビニ(保険代理店)
- 株式会社サウンドファン(音のバリアフリー開発・製造・販売)
- 株式会社大塚商会(システム機器、ソフトウェアの販売)
- 株式会社京念珠刑部(念珠製造・販売)
- 株式会社京扇堂(扇子製造・販売)
- 株式会社小堀(仏壇仏具製造・販売)
- 株式会社若林工芸舎(文化財保存修理)
- 株式会社公益社(葬祭)
- 株式会社ダイセイ(総合商社)
- 株式会社アドレスジムキ(オフィス機器販売)
- 株式会社いせや(石材)
- 株式会社AVENTIL(お寺の窓口運営・WEB制作)
- 株式会社TERATECHINC.(お寺のDX支援)
- 株式会社シエアウイング(お寺ステイの提案)
- グレートインフォメーション株式会社(システム開発運営・WEB制作)
- 株式会社おぎね(高強度磁器食器の製造、販売)
- TERA Energy株式会社(小売電力)
- 株式会社鎌倉新書(終活支援)
- 株式会社オフィスワイズ(プロモーション企画)
- イトー株式会社みのはん(寺院向け業務用品通信販売)
- 株式会社エータイ(永代供養・樹木葬)
- 株式会社セルフネン(建築材料)
- 株式会社ドリム(音響機器)
- 三協美術印刷株式会社(写植・製版)
- 日本仏教看護・ビハラ学会
- 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
- 一般財団法人ライフプランニングセンター
- 一般財団法人100万人のクラシックライブ
- 一般財団法人LOS相談センター
- 一般社団法人PRAY for ONE

- 一般社団法人良いお寺研究会
- 特定非営利活動法人ジャパンハート
- 全日本宗教学協会
- 全日本葬祭業協同組合
- 岩手県葬祭業協同組合
- 埼玉県葬祭業協同組合
- 東京都葬祭業協同組合
- 神奈川県葬祭業協同組合
- 岐阜県葬祭業協同組合
- 名古屋葬祭業協同組合
- 愛知県葬祭業協同組合
- 京都中央葬祭業協同組合
- 大阪葬祭業協同組合
- 福岡県葬祭業協同組合
- 長崎県葬祭業協同組合
- 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
- 一般社団法人日本石材産業協会
- 准秩父親音霊場三十四札所

新年お慶び申しあげます



全日本仏教青年会

WFBY(世界仏教徒青年連盟)日本センター



- 理事長 新井 順證
- 事務局長 健代 晃教
- 事務局 大阪府大阪市天王寺区
四天王寺一丁目十八日四天王寺
〒543 0051
TEL 06(六七七二)0066
FAX 06(六七七三)4921
E-mail info@jybare.jp
URL https://www.jybare.jp

一般社団法人 仏教情報センター

- 理事長 白川 淳敬
- 副理事長 平井 良昌
- 副理事長 本間 孝継
- 〒113 0033 東京都文京区本郷一丁目六二〇二
TEL 〇三(三八一三)六五七七
FAX 〇三(三八一三)六七九四

- 妙見宗
- 新義真言宗
- 真言宗善通寺派
- 真言宗山階派
- 真言宗泉涌寺派
- 真言宗国分寺派
- 信貴山真言宗
- 真言宗大鳴派
- 浄土宗西山禅林寺派
- 浄土宗西山深草派
- 真宗高田派
- 真宗佛光寺派
- 真宗興正派
- 真宗木辺派
- 臨濟宗建長寺派
- 臨濟宗天龍寺派
- 臨濟宗東福寺派
- 黄檗宗
- 本門法華宗
- 法相宗
- 聖徳宗
- 華嚴宗
- 律宗
- 北海道仏教会連盟
- 岩手県仏教会
- 栃木県仏教会
- 群馬県仏教連合会
- 千葉県仏教会
- 石川県仏教会
- 福井県仏教会
- 長野県仏教会
- 岐阜県仏教会

- 静岡県仏教会
- (一財)京都仏教会
- 兵庫県仏教会
- 和歌山県仏教会
- 鳥取県仏教連合会
- 島根県仏教会
- (一社)徳島県仏教会
- 香川県仏教会
- 高知県仏教会
- 福岡県仏教連合会
- 長崎県仏教連合会
- 熊本県仏教会
- 宮崎県仏教連合会
- 沖縄県仏教会
- 東京ブデイストクラブ
- (一社)日本仏教鑽仰会
- 日韓仏教交流協議会

賛助会員

【特別会員】

- 大本山東福寺 原田 融道
- 蓮華院誕生寺 川原 英照
- 尾道仏教会 小林 暢善
- 實相山中央寺 熊谷 忠興
- 信州善光寺 林 明晋
- 一般社団法人仙台仏教会 伊達 廣三
- 壹阪山南法華寺 常盤 勝範
- 築地本願寺 千田 雅寛
- 気仙沼仏教会



新年お慶び申しあげます



第8回花まつりデザイン大賞発表！

ポスター大賞作品



「誕生の喜び」
清岡 みずほさん

お釈迦様が誕生された時の喜びとその時期がちょうど日本の「桜」の季節であるので、背景に桜を取り入れました。また「花まつり」という大切な仏教行事をより一層認知度を高める為、象の装飾に「仏旗・法輪」も加えさせていただきました。

ポスター大賞作品

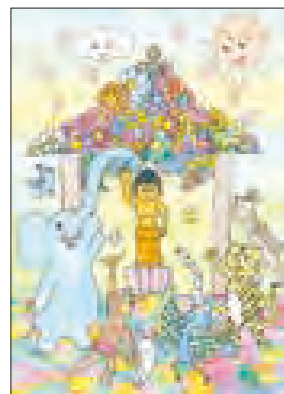
(満12歳以下)



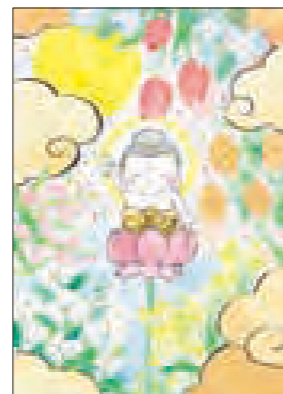
「みんなえがおになあれ」
山口 恵永さん

みんなニコニコ、しあわせになりますように。

絵はがき大賞作品



「世界とおいわい」
藤田 円子さん
私は、いなかに住んでいるので野山に動物がいっぱいいます。だから、動物といっしょに楽しくおいわいしているところを描きました。



「花の海でほほえむおしゃか様」
杉原 珀都さん
雲や波を描くことで「和」を表現しました。また花まつりの頃に咲く旬な花の中でも私が特に好きな花たちを敷き詰めました。おしゃか様の表情も穏やかにほほえんでいる感じが上手く表現できたと思います。この作品を見た方が花まつりに興味を持ってもらい、地域の花まつりに参加してみよう！という気持ちになっただされば幸いです。

受賞されたみなさま、おめでとうございます。頒布・配布については巻末をご覧ください。

- 【個人会員】
- 社本 公一(公認会計士)
 - 龍泉寺 佐々木 誠宗(秋田県)
 - 護勢寺 菅原 公宇(宮城県)
 - 福聚院 伊達 廣三(宮城県)
 - 慈願寺 池田 行信(栃木県)
 - 東榮寺 大森 篤史(埼玉県)
 - 法瑠寺 矢島 浄純(埼玉県)
 - 建福寺 安野 正樹(埼玉県)
 - 光明寺 石上 智康(千葉県)
 - 妙定院 小林 正道(東京都)
 - 浄心寺 佐藤 雅彦(東京都)
 - 慶安寺 深澤 信善(東京都)
 - 真照寺 堀井 隆川(東京都)
 - 長専院 正本 光生(東京都)
 - 廣徳寺 板坂 光明(神奈川県)
 - 清水寺 久喜 和裕(神奈川県)
 - 大藏寺 佐藤 直道(神奈川県)
 - 金蔵院 眞田 有快(神奈川県)
 - 龍泉寺 壽山 良光(神奈川県)
 - 圓満寺 西郊 良光(神奈川県)
 - 正泉寺 野澤 隆幸(神奈川県)
 - 實相院 東田 樹治(神奈川県)
 - 重蓮寺 関崎 幸孝(新潟県)
 - 法元寺 鈴木 義俊(山梨県)
 - 玄向寺 荻須 眞教(長野県)
 - 本光寺 木村 光正(静岡県)
 - 観音寺 石原 峰志(愛知県)
 - 寂光院 松平 實胤(愛知県)

- 太福寺 佐久間 大道(兵庫県)
- 善隆寺 杉浦 栄俊(兵庫県)
- 吉祥院 曾我 龍慶(兵庫県)
- 精明寺 疋田 哲壽(鳥取県)
- 洞光寺 池上 幸秀(鳥取県)
- 薬師院 小川 義真(島根県)
- 定林寺 田邊 学成(岡山県)
- 西光寺 高橋 篤法(大分県)
- 其田 寿一(青森県)
- 渡邊 永(宮城県)
- 小田 卓也(千葉県)
- 鈴木 朝雄(千葉県)
- 小川 昌美(東京都)
- 北野 譲治(東京都)
- 小林 昇(東京都)
- 平 みきお(東京都)
- 鳥居 邦夫(東京都)
- 松村 一平(東京都)
- 村松 朱実(東京都)
- 天久保 貴(神奈川県)
- 大谷 喜代司(神奈川県)
- 君和田 茂男(神奈川県)
- 木村 匡成(神奈川県)
- 佐藤 泰之(神奈川県)
- 中村 美津江(神奈川県)
- 松田 健(神奈川県)
- 霧林 健(神奈川県)
- 山崎 忠征(和歌山県)
- 安田 容造(京都府)

- 邊見 由峰(香川県)
- 山口 展弘(福岡県)
- 井上 美和子(佐賀県)
- 塩月 光夫(宮城県)
- 逢沢 一郎(衆議院議員)
- 石田 真敏(衆議院議員)
- 岩屋 毅(衆議院議員)
- 枝野 幸男(衆議院議員)
- 大串 博志(衆議院議員)
- 逢坂 誠二(衆議院議員)
- 加藤 勝信(衆議院議員)
- 金子 恭之(衆議院議員)
- 上川 陽子(衆議院議員)
- 後藤 茂之(衆議院議員)
- 小山 展弘(衆議院議員)
- 櫻井 周(衆議院議員)
- 佐藤 公治(衆議院議員)
- 関 芳弘(衆議院議員)
- 高市 早苗(衆議院議員)
- 原口 一博(衆議院議員)
- 平沢 勝栄(衆議院議員)
- 堀内 詔子(衆議院議員)
- 前原 誠司(衆議院議員)
- 牧島 かれん(衆議院議員)
- 松本 謙公(衆議院議員)
- 松本 剛明(衆議院議員)
- 森山 浩行(衆議院議員)
- 浅尾 慶一郎(衆議院議員)
- 伊藤 孝恵(衆議院議員)

- 大塚 耕平(衆議院議員)
 - 片山 さつき(衆議院議員)
 - 片山 大介(衆議院議員)
 - 斎藤 嘉隆(衆議院議員)
 - 武見 敬三(衆議院議員)
 - 徳永 エリ(衆議院議員)
 - 福山 哲郎(衆議院議員)
 - 水岡 俊一(衆議院議員)
 - 大野 元裕(衆議院議員)
 - 早坂 義弘(衆議院議員)
 - 赤松 広隆(衆議院議員)
 - 荒井 聰(衆議院議員)
 - 大塚 高司(衆議院議員)
 - 河村 建夫(衆議院議員)
 - 小島 敏文(衆議院議員)
 - 左藤 章(衆議院議員)
 - 佐藤 ゆかり(衆議院議員)
 - 野田 毅(衆議院議員)
 - 橋本 岳(衆議院議員)
 - 細田 健一(衆議院議員)
 - 三原 朝彦(衆議院議員)
 - 盛山 正仁(衆議院議員)
 - 湯原 俊二(衆議院議員)
 - 鈴木 寛(衆議院議員)
 - 鈴木 政二(衆議院議員)
 - 二之湯 智(衆議院議員)
 - 白 眞勲(衆議院議員)
 - 藤谷 光信(衆議院議員)
- (令和6年12月現在)

第36期各種審議会委員(会)委員

第36期総務財政審議会

- 安藤 道隆(曹洞宗)
 - 東森 尚人(浄土真宗本願寺派)
 - 藤田 哲史(真宗大谷派)
 - 吉水 仙昭(浄土宗)
 - 笠井 照永(日蓮宗)
 - 竹井 成範(高野山真言宗)
 - 細川 晋輔(臨済宗妙心寺派)
 - 坂本 圭司(天台宗)
 - 杉本 栄次(真言宗智山派)
 - 藤原 静海(真言宗豊山派)
 - 吉田 泰樹(学識経験者)
 - 遠賀 令子(学識経験者)
 - 佐藤 泰之(学識経験者)
 - 蓑輪 顕量(学識経験者)
 - ※小林 祖承(天台宗)
- 令和6年8月1日～12月18日まで

第36期社会・人権審議会

- 我孫子 高宏(曹洞宗)
- 岡田 光恵(浄土真宗本願寺派)
- 徳永 誠(真宗大谷派)
- 伴 乃昶(浄土宗)

- 赤堀 正明(日蓮宗)
- 藤本 善光(高野山真言宗)
- 谷 明生(臨済宗妙心寺派)
- 原 徳明(天台宗)
- 荒井 真道(真言宗智山派)
- 小林 政彦(真言宗豊山派)
- 株橋 隆真(法華宗(本門流))
- 小池 達子(学識経験者)

第36期国際交流審議会

- 加藤 泰隆(曹洞宗)
- 藤澤 理映(浄土真宗本願寺派)
- 延澤 栄賢(真宗大谷派)
- 茂木 恵順(浄土宗)
- 大島 啓慈(日蓮宗)
- 後藤 友栄(高野山真言宗)
- 松山 大耕(臨済宗妙心寺派)
- 荒樋 勝善(天台宗)
- 鈴木 晋恰(真言宗智山派)
- 島本 誠永(真言宗豊山派)
- 久野 晃秀(法華宗(本門流))
- 長松 清潤(本門佛立宗)
- 枝木 美香(学識経験者)
- 西永 亜紀子(学識経験者)
- 日比野 郁皓(学識経験者)

第36期広報委員会

- 大友 博志(曹洞宗)
- 中井 真人(浄土真宗本願寺派)
- 石井 正道(真宗大谷派)
- 小村 正孝(浄土宗)
- 坂詰 秀正(日蓮宗)
- 藪 邦彦(高野山真言宗)
- 並木 泰淳(臨済宗妙心寺派)
- 西村 智秀(天台宗)
- 田中 隆明(真言宗智山派)
- 吉田 真澄(真言宗豊山派)
- 吉田 泰樹(東京都仏教連合会)
- 沼田 千恵(公財)仏教伝道協会)
- 佐藤 泰之(学識経験者)
- 赤堀 正卓(学識経験者)
- 西出 勇志(学識経験者)
- 松崎 香織(学識経験者)
- 柏木 友紀(学識経験者)

第36期支援検討会議

- 吉田 泰樹(東京都仏教連合会)
- 鬼頭 広安(一社)仏教情報センター)
- 梨本 三千代(公社)全日本仏教婦人連盟)
- 茅野 俊幸(仏教NGOネットワーク)
- 稲場 圭信(大阪大学)
- 新井 順證(全日本仏教青年会)
- 長谷川 正浩(公財)全日本仏教会)

法人創立70周年記念事業実行委員会

- 伊藤 道仁(曹洞宗)
- 渡邊 弘文(浄土真宗本願寺派)
- 石井 正道(真宗大谷派)
- 西 央成(浄土宗)
- 坂詰 秀正(日蓮宗)
- 神野 泰成(高野山真言宗)
- 並木 泰淳(臨済宗妙心寺派)
- 西村 智秀(天台宗)
- 平野 哲央(真言宗智山派)
- 吉田 真澄(真言宗豊山派)
- 熊田 秀海(福島県仏教会)
- 鈴木 義俊(学識経験者)
- 茶円 宥勝(島根県仏教会)
- 小川 淳詩(学識経験者)
- 柳池 友絢(学識経験者)
- 加藤 京子(学識経験者)
- 村瀬 友洋(学識経験者)
- 鈴木 健太(学識経験者)
- 金原 円応(学識経験者)
- ※委員は順次追加

第1回法人創立70周年記念事業 実行委員会総務部会

日時：令和6年9月4日(水)10時～
会場：本会議室(オンライン併用)

第1回法人創立70周年記念事業 実行委員会財務部会

日時：令和6年9月4日(水)10時～
会場：本会議室
出席委員：伊藤道仁(曹洞宗) 石井正道(真宗大谷派) 西村智秀(天台宗)
検討事項：① 70周年記念事業の予算について ② 収入の部について

第2回法人創立70周年記念事業 実行委員会総務部会

日時：令和6年10月10日(木)14時～
会場：本会議室(オンライン併用)
出席委員：渡邊弘文(浄土真宗本願寺派) 西 央成(浄土宗) 平野哲央(真言宗智山派) 村瀬友洋(学識経験者)

第2回法人創立70周年記念事業 実行委員会

会場：本会議室(オンライン併用)
出席委員：伊藤道仁(曹洞宗) 石井正道(真宗大谷派) 西村智秀(天台宗)
【概要】 定刻になり開会。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。伊藤部会長が議長となり検討に入り、「収益を見込んだ事業」に関する検討事項について関総務部長より説明。委員間にて意見を交換し、収益を見込んだ事業については引き続き検討することとし、実行委員会に報告することになりました。16時に閉会。

第2回法人創立70周年記念事業 実行委員会

日時：令和6年10月11日(金)14時～
会場：本会議室(オンライン併用)
出席委員：和田学英(事務総長) 伊藤道仁(曹洞宗) 渡邊弘文(浄土真宗本願寺派)

出席委員：渡邊弘文(浄土真宗本願寺派) 西 央成(浄土宗) 平野哲央(真言宗智山派) 村瀬友洋(学識経験者)
検討事項：① 周年事業の名称 ② 開催時期 ③ 開催地 ④ テーマ ⑤ 内容

【概要】 会議に先立ち各委員に任命書が交付されました。定刻になり開会。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。部会委員の互選により部会長を選定し、浄土真宗本願寺派渡邊弘文氏に決定しました。部会長が議長となり検討事項に入りました。関総務部長より前述の4点の検討事項について説明し、委員間にて意見を交換し、11時半に閉会しました。

【概要】

総務部会と同日に開催。同様に、会議に先立ち、各委員に任命書が交付されました。定刻になり開会。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。部会委員の互選により部会長を選定し、曹洞宗伊藤道仁氏に決定しました。部会長が議長となり補正予算案と収益を見込んだ事業に関する検討事項について説明。委員間にて意見を交換し、11時半に閉会しました。

【概要】

定刻になり開会。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。渡邊部会長が議長となり検討に入り、残った開催時期、開催地、テーマ、内容の4点の検討課題のうち、テーマの副題は今後検討することとし、実行委員会に報告することとなりました。16時に閉会。

第2回法人創立70周年記念事業 実行委員会財務部会

日時：令和6年10月10日(木)14時～



会場となったユネスコ本部内のルーム1

WFB 国際平和会議
in ユネスコ

2024(令和6)年10月28日29日
WFB(世界仏教徒連盟)主催による国際平和会議がフランス・パリのユネスコ(国連教育科学文化機関)本部にて開催されました。

この国際平和会議ではテーマを「教育を通じて持続可能な平和社会」と掲げ、会場のユネスコ本部内で最も大きなルーム1には、タイや日本、韓国、ベトナム、スリランカ、マレーシア、バングラデッシュ、欧米など世界の仏



WFBのパロップ会長によるスピーチ

教者が集まり、ユネスコ関係者とともに平和教育の重要性を訴えました。全日本仏教会(以下、本会)からはWFB執行役員の戸松義晴本会理事、日比野郁皓WFB顧問、東海林良昌WFB人道支援委員会委員長、本会国際部、またフランスに所在する曹洞宗ヨーロッパ国際布教総監部や浄土宗ヨーロッパ仏教センターなどからもご参加いただきました。

この会議に合わせ10月29日にはラマ10世タイ国王陛下の72歳の誕生日いと功德会法要が催されています。国王陛下のご参列は残念ながら叶わなかつ



パネルディスカッションで発表する戸松義晴 WFB 執行役員

たのですが、陛下からのビデオメッセージが上映されました。WFBのパロップ・タイヤリー会長はスピーチを行い、タイ国王陛下への祝辞と感謝、各参加者やユネスコ関係者への御礼、仏教の更なる発展への願いなどを語りました。

会中に2回行われたパネルディスカッションでは、特に「宗教教育」や「宗教間対話」についての議論を深めました。戸松義晴WFB執行役員はパネリストの一人として登壇し、人間の素晴らしさは宗教の教えにこそあると言及し、多宗教間での対話の重要性や教えを実践する責務を強調しました。

第44回理事会報告

日時: 令和6年11月22日14時
会場: 本会議室(オンライン併用)
議長: 池田行信第36期理事長
出席理事: 14名(19名中)

- 和田学英(曹洞宗・第36期事務総長)
- 池田行信(浄土真宗本願寺派・第36期理事長)
- 里雄康意(真宗大谷派・第35期理事長)
- 戸松義晴(浄土宗)
- 秋山文裕(日蓮宗)
- 小林秀嶽(臨済宗妙心寺派)
- 船戸俊宏(天台宗)
- 加久保範祐(真言宗智山派)
- 岩脇彰信(真言宗豊山派)
- 岡野正純(孝道教団)

第2回総務財政審議会

日時: 令和6年10月21日(月)14時
会場: 本会議室(オンライン併用)
出席委員:

- 安藤道隆(曹洞宗)
- 東森尚人(浄土真宗本願寺派)
- 藤田哲史(真宗大谷派)
- 吉水仙昭(浄土宗)
- 笠井照永(日蓮宗)
- 竹井成範(高野山真言宗)
- 細川晋輔(臨済宗妙心寺派)
- 藤原静海(真言宗豊山派)
- 吉田泰樹(東京都仏教連合会)
- 遠賀令子(公社)全日本仏教婦人連盟)
- 佐藤泰之(学識経験者)
- オブザーバー: 長谷川正浩(本会顧問弁護士) 大島義則(本会顧問弁護士)

- ① 『法規集』の見直しについて
- ② 法人創立70周年記念事業について
- ③ 第48回全日本仏教徒会議の開催地について
- ④ 大蔵経運営事業について



※④については次回の審議内容となります。

【概要】
定刻になり会議開催。藤田哲史委員長の発声により三帰依文、挨拶。事務局より配布資料2点の確認。和田学英事務総長より審議会成立の報告。藤田委員長より参考人の出席について報告。藤田委員長が座長となり議事進行。諮問4件及び答申について精査。委員間にて意見を交わしました。答申については内容を整理し、後日、正副委員長が池田行信理事長に提出することになりました。最後に吉田泰樹副委員長より閉会の辞が述べられました。

第36期第2回社会・人権審議会

日時: 令和6年10月28日14時
会場: 本会議室(オンライン併用)
出席委員:

- 榎田俊道(曹洞宗)【委員代理】
- 徳永誠(真宗大谷派)
- 藤本善光(高野山真言宗)
- 谷明生(臨済宗妙心寺派)
- 荒井真道(真言宗智山派)
- 小林政彦(真言宗豊山派)
- 株橋隆真(法華宗(本門流))
- オブザーバー: 長谷川正浩(本会顧問弁護士)

【概要】
三帰依文を唱和の後、和田学英事務総長の挨拶。続いて、今期の理事長諮問の一つである「仏教者として死刑についてどう考えるべきか」に関連して、犯罪被害者週間に向けた理事長談話の文案について審議しました。

またもう一つの諮問事項「『過去帳』等の取扱について」に関して、本会より現状報告を行いました。



第34期からの継続テーマである「国連の持続可能な開発目標(SDGs)の具現化」にあたる、現在まで行われてきた加盟団体の報告を共有しました。諮問②については、時間が足りず本格的な審議は次回に持ち越し。最後に今期のロードマップが共有され、今後の審議会の計画や目標が話し合われました。次回以降は、諮問についてのワークショップや外部の講師を招いた勉強会を行う予定です。

守山雄順(聖観音宗)
三吉廣明(東京都仏教連合会)
石原伸俊(岡山県佛教会)
花岡眞理子(公社)全日本仏教婦人連盟)
出席監事: 2名(3名中)
平井良昌(一社)仏教情報センター)
木村匡成(公認会計士)

【概要】

開会にあたり、池田理事長の発声により三帰依文を唱和、開会挨拶が述べられた後、理事長が議長となり議事が進行されました。

- ① 加盟団体の負担金減免について承認を求める件
- ② 総務財政審議会規程改正案について承認を求める件
- ③ 社会・人権審議会規程改正案について承認を求める件
- ④ 国際交流審議会規程改正案について承認を求める件
- ⑤ 法人創立70周年記念事業実行委員会規程改正案について承認を求める件
- ⑥ 時局問題検討委員会規程制定案

について承認を求める件

⑦ 懲戒規程制定案について承認を求める件

⑧ 事務総局規程中改正案について承認を求める件

⑨ 法人創立70周年記念事業補正予算案について承認を求める件

を上げし、出席理事全員の賛成により承認されました。

協議事項は、

- ① 2025年度事業大綱(案)について賛同を求める件
- ② 2025年度予算大綱(案)について賛同を求める件

を上げし、事務総局が説明し出席した理事全員が賛同しました。

報告事項は、

- ① 理事長の職務執行状況
- ② 広報委員会規程中改正についての報告
- ③ 朝鮮半島出身の旧民間徴用者等の遺骨返還委員会規程中改正についての報告
- ④ 就業規則中改正についての報告
- ⑤ 『全仏』誌論説委員会内規廃止についての報告

以上が報告されました。

「賛助会員」新規入会者一覧

2024(令和6)年9月1日〜

2024(令和6)年11月30日

(時系列順・敬称略)

株式会社シエアウィング
(団体会員)

ご入会、誠にありがとうございます。

「救援基金」寄附者一覧

2024(令和6)年9月1日〜

2024(令和6)年11月30日

(時系列順・敬称略)

- 愛媛県仏教会
- 滝野川仏教会
- 岐阜県仏教会
- 練馬区仏教会
- 真言宗智山派 東京南部教区
- 瀬高町仏教会
- 都留仏教会
- 益田市仏教会
- 海眼寺 芝原三裕



第36期第2回国際交流審議会

日時: 令和6年11月29日(金)15時〜

会場: 本会議室(オンライン併用)

出席委員:

- 加藤泰隆(曹洞宗)
- 藤澤理映(浄土真宗本願寺派)
- 延澤栄賢(真宗大谷派)
- 茂木恵順(浄土宗)
- 大島啓慈(日蓮宗)

松山大耕(臨済宗妙心寺派)

鈴木晋怜(真言宗智山派)

久野晃秀(法華宗(本門流))

長松清潤(本門佛立宗)

日比野郁皓(学識経験者)

枝木美香(学識経験者)

西永亜紀子(学識経験者)

【諮問】

① 国際交流の現状と今後の展望について

② SDGs(気候変動・難民問題・ジェンダー平等)について

【概要】

まず和田学英事務総長の発声で三帰依文を唱和し、引き続き開会挨拶が述べられ、長松清潤委員長の議事進行で諮問についての審議が行われました。

諮問①の「国際交流の現状と今後の展望」については加盟団体の国内外の事例や方針を共有いただき、特に後継者不足や現地での僧侶育成、インバウンド対応などの課題について施策を話し合いました。

諮問②の「SDGs(気候変動・難民問題・ジェンダー平等)」については、

賛助会員募集

本会では賛助会員を募集しております。全国の寺院をはじめ、企業や団体、個人としてご入会いただけます。入会等の詳細は本会ウェブサイトをご覧ください。



寺内特設 お電話1本でカンタン申込み、相談無料

無料法律相談室

本会顧問弁護士が、寺内向け無料相談を開催しております。

法律? トキゾク? 相続?

花まつり

ポスター・絵はがき 頒布・配布開始

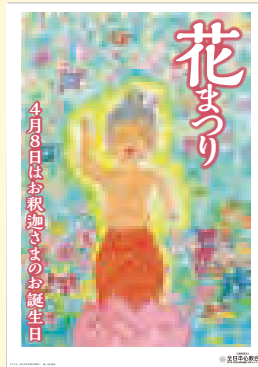
(2025[令和7]年1月より申込、2月より発送を開始いたします。)

花まつりデザイン応募作品から作成いたしました!!

全日本仏教会では「花まつり」の社会宣揚を推進すべく花まつりポスター・絵はがきを頒布・配布しています。2024年に第8回を迎えた花まつりデザイン公募も仏教行事「花まつり」を題材に自由に描いていただきました。国内外から158点の応募をいただき、その中から大賞に選ばれた作品でポスターと絵はがきを作成いたしました。地域や寺院で開催される「花まつり」や春のイベント告知に、新春のご挨拶や感謝の気持ちを伝えるツールとしてご活用いただけると幸いです。皆さまからのご注文、お待ちしております。また、少数でもお気軽にご注文ください。



ポスター大賞
誕生の喜び

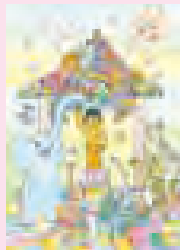


ポスター大賞(満12歳以下)
みんなえがおになあれ



天台宗 石根山 善水寺
重要文化財
金銅誕生釈迦仏立像

- ◆ポスター:
1枚50円
(※別途、送料が必要です)
- ◆サイズ:A2



「世界とおいおい」



「花の海でほほえむおしゃか様」

絵はがき大賞とポスター大賞作品

- ◆絵はがき(3枚1組):無料
(※別途、送料が必要です。)

在庫に限りがありますのでお早めの申込をお願いします。

皆さまの花まつり・春のイベントを紹介します！

本会Webサイトでは全国の「花まつり」や春のイベントを紹介したく、開催情報をお待ちしております。一人でも多くの方に「花まつり」を知っていただき、お釈迦さまのご誕生を皆さんでお祝いいたしましょう。

【申し込み】

広報文化部

E-mail:kouho@jbf.ne.jp

※申込用紙は本会webサイトよりダウンロードいただけます。(https://www.jbf.ne.jp/)



公益財団法人
全日本仏教会
WFB(世界仏教徒連盟)日本センター



全日本仏教会

検索

<https://www.jbf.ne.jp>

発行人 和田学英

発行所 公益財団法人 全日本仏教会

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

e-mail:info@jbf.ne.jp

